

駿河灣魚類追加及び訂正(第11)*

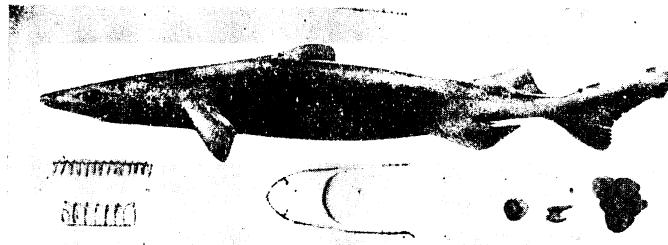
黒田長禮

Additions to the list of fishes of Suruga Bay (XI),
with corrections

Nagamichi KURODA

20. ユメザメ *Centroscymnus owstonii* GARMAN

1906年 GARMAN は駿河灣江ノ浦から記載したのであったが、筆者の不注意から駿河灣魚類分布目録(1951)から脱漏していた。夫故茲に改めて追加する。原記載に用いられた個体は只一点であることは FOWLER (1941)も証明している。角鰓科のもので、一見しての特徴は第1背鰭が短小で低く且つ後方に延びないこと、胸鰭も其内角が殆ど突出していないことにある。其他鱗が円形中凹で小柄のあることが特異とされる。

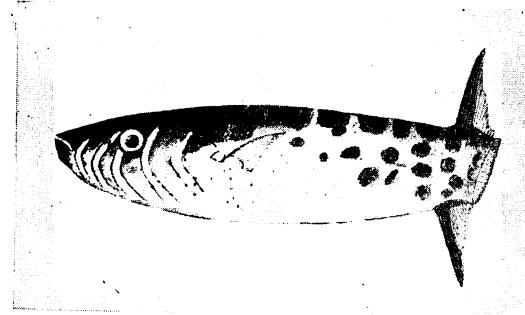


第1図 ユメザメ(江ノ浦産模式標品) *Centroscymnus owstonii* (GARMAN, 1913)

分布はその北限が房州小湊の深海(松原教授報)で、相模湾では大磯(阿部博士教示)、而して駿河湾では江の浦の外焼津、山比である(阿部氏教示)。

480'. クサビマンボウ *Ranzania makua* JENKINS

1952年8月9日伊豆三津水族館を参観したとき本種の幼魚の液漬標品を発見したので之を借用して調べてみた。採集地は三浦近海で、1951年8月に三津の鳶職山本某なる人が漁獲し多少弱っていたものが水族館に入り間もなく斃死したのであるという。(主任花島治作氏談)



第2図 クサビマンボウ(クサビフグ) *Ranzania makua* 三津近海産(著者原図)

* 追加第10は動・雑, vol. 61, no. 6, pp. 169~177 (1952).

魚の和名の前の番号は駿河灣魚類分布目録(1951)に追加の位置を示す。

測定—全長 (C. 端迄) 238mm.、体長231.3、吻長34、頭長87.5、眼下縁から口角中央と鰓孔とを結ぶる線迄の長さ2.5、頭の厚さ (眼後にて) 32.2、眼径15、体高 (鰓孔部) 61.4、体高 (P.部) 62、体高 (最高部) 63、体高 (D. と A. の前部) 48、P. 長36.8、D. 長45.8、A. 長44、C. 長6.7 D. 18、A. 17、C. 17、P. 14.

体色 (三津産、1ヵ年液漬後の標品) ——外観は一寸ソウダガツオを思い起す形態と色合である背面は濃黒褐色殆ど真黒に近い。眼より前方の3横帯は淡蒼灰色で帶の縁は灰褐色。眼に接する1帯も同様であるが、下方の縁に灰褐色の擬円点4個位ある。次の3帯はいずれも縁にこの円点を有する。体側中央には不判明な円大斑を示し、中央より後方のものは灰褐色が濃色となり、円も亦大形となる。是等の円斑間には淡銀灰白色の粗らき網状に近似する。そして背方上方にも5~6の灰銀蒼色帶を示す。腹方は無斑、恐らく生活時は銀白色であったろう。D. と A. とは前縁半黒く、後縁半白色。P. は大部分白く上縁は淡黒色。C. は灰色及び白色の部分があって先縁は稍々暗色となる。体側に側線様の隆起線があり、後方は消える。虹彩は此液漬にて白色その内外縁は蒼色で美しい。

分布—クサビマンボウ (田中博士、奇魚珍魚、p. 147, 1934 及び魚、p. 69, 1940 にて始めて命名された名、古くは同博士によりクサビフグと云った) は *R. makua* として 1895 年 JENKINS がハワイのオアフ島パールハーバーの入口で H. KAPU の採集した全長 508mm. をタイプとして記載したのが最初とされる。第2標品は SNYDER が 1901 にホノルルで採集の全長 101.6 mm. のものであった。日本にあっては古く伊達伯蔵古画に出ているのが愛知県渥美郡赤羽根村沖での漁獲品を写したものとなっている。其他田中博士通信では 20 年前位に相模湾国府津海岸で 2 尾 (240 mm. 位) が獲られたという。四国では蒲原教授 (1950, p. 210) が全長 1000 mm. のものを報告され (これは戦災で焼け、其後は入手されないと通信があった)、其他には日本の例は知らない。しかし阿部博士の話ではクサビマンボウもヤリマンボウも共に左程珍らしくはないとのこと。氏は屢々南方へ行かれるので伊豆諸島などで時々獲られたのを見られた由。海外では台湾、支那海、南洋及び印度洋から報告される。大西洋産とは同種説と別種説とがあり、その差は次の様に記される

JORDAN & SNYDER (1901) は *R. makua* は大西洋の *R. truncata* (RETIUS) に比し眼の小なること、眼が口よりも上位に存し、且つ体軸よりも上方に存すること、[*truncata* では口は眼と同一レベルにあり] P. の位置が上位であること、D. の高さと A. の高さとが共により高いこと及び体色の差である。以上の諸点は日本の標品の例に全く一致する。一説には年齢により著しく形態と斑紋とを異にするといわれる。私の考察したところでは大西洋と太平洋産とは全く同一ではないらしく種としては同一種でも亜種的に異なると思われる。それで学名は *R. truncata makua* JENKINS とすべきかと思う。但し SMITH 教授 (1949) は只 1 種と認め、学名には *R. typus* NARDO (1840) が正しいとしている。此事は私には今決定しかねる。

今回の標品はタイプ (パールハーバー産) の図と比較し非常によく似るが只幼魚のためか著しく体が細長い。両例を比較すると次の様になる。蒲原教授の図も細長い。

产地	全長	D.	A.	C.	P.	体長は 頭長の	体長は 体高の	頭長は 眼徑の	頭長は 吻長の	頭長は P長の
パール ハーバー	508 mm	17	18	19	13	2.83	2.13	6	2.33	1.5
三津	238	18	17	17	14	2.64	3.67	5.83	2.57	2.37

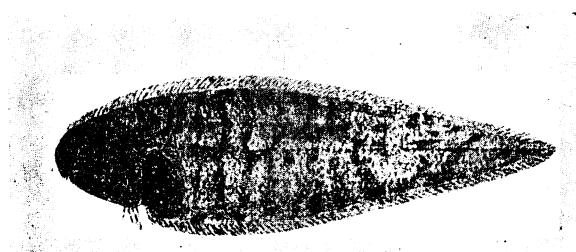
クサビマンボウ参考書

GÜNTHER, A. 1870. Catalogue of the Fishes in the British Museum, vol. viii, pp. 319-320. [大西洋の例]

- * JENKINS. 1895. Proc. Calif. Acad. Sci., 2d ser., v, pp. 780, 784, col. pl. (Pearl Harbor, near Honolulu).
- JORDAN, D. S. 1905. Fishes, ii, p. 425, fig. 364 [太平洋例].
- * JORDAN, D. S. & EVERMANN 1898. Fish. N. M. America, p. 1755, copied [太平洋例].
- JORDAN, D. S. & SNYDER, J. O. 1901. A Review of the Gymnodont Fishes of Japan. Proc. U. S. Nat. Mus., xxiv, pp. 262-263. [太平洋例].
- JORDAN, TANAKA & SNYDER. 1913. Catalogue of the Fishes of Japan. Facult. Sci., Imp. Univ. Tokyo, pp. 230-231, fig. 166 (ex Jenkins).
- 蒲原稔治 1950. 土佐及び紀州の魚類, p. 210, fig. 160.
- NORMAN, J. R. & FRASER, F. C. 1937. Giant Fishes, whales and Dolphins, p. 184 (as cosmopolitan).
- 岡田弥一郎 1938. A. Catalogue of Vertebrates of Japan, p. 220.
- 岡田・松原 1938. 日本產魚類檢索, p. 296.
- SMITH, J. L. B. 1949. The Sea Fishes of Southern Africa, pp. 421-422, pl. 95, fig. 1212 (col.).
- 田子勝弥 (編) 1920. 日本魚介図譜第1輯, no. 16 (col. pl.).
- 田中茂穂 1927. 日本動物図鑑 p. 394, fig. 757.
- 1933. 水産動植物図説, p. 246, fig. [太西洋型].
- 1934. 奇魚珍魚, pp. 147-148, pl. 6 [日本でまだ10回も取れていない].
- 1940. 魚, pp. 69-70. (創元社)

667. リュウキュウウシノシタ *Trulla itina* SNYDER

1952年8月6日志下海岸干湖の際ヌメリゴチ、ネズミゴチ、ヨウジウオ、アラメガレイ等と共に本種1尾を山内豊厚君が採集した。調査の結果は次の通り。



第3図 リュウキュウウシノシタ *Trulla itina* SNYDER 志下海岸採集(viii 1952) (著者原図)

全長 122mm., 体長 119, 体高 33. D. 107, A. 89, V. 4, 鱗列 (鰓孔上角より尾鰭迄) 90個。頭長は眼径の約7倍、体長は頭長の5.6倍、体長は体高の3.6倍。

活魚の新鮮色——頭部及び体の前1/7位は一なる淡色の灰オリーブ色、それに淡灰褐色の小斑を散在する。左向きのもので内臓部は特に外方からも暗褐色を呈している。体の後方6/7位は地色は淡紅灰色で、それに雲形或は不規則な12位の横帶状をしたumber brown の帶があり、所々に不判明な銀灰色の小円点がある。虹彩は暗褐色。下眼の前方に1鼻孔が明在する、側線は3条明在し頭部で上中の2側線は枝を以て連続する。D., A. 及び V. は大体オリーブ色に少し黄を帯び、D. 及び A. の軸に2-3淡色部(銀白色)があり、そのため D. 及び A. に淡色の交互斑が現われる。眼側鱗は櫛鱗、無眼側は勿論白色で、櫛鱗であるが弱く、両縁辺に帶汚黄色1条がある。

ゲンチョ (*Areliscus interruptes* [GÜNTHER]) と比するに次の相違点がある。(1) 吻端がゲンチョやアカシタビラメでは薄く、尖り型、此標品ではササウシノシタの様に外形丸味があつて厚

* 印の文献は見ていない。

味が多い。(2) D. 及び A. がゲンチョでは暗色が一様的であるが、此標品では淡色の交互斑が入ること。(3) 鱗が著しく細かいこと。従って側線鱗90個(鰓孔上角から尾鰭迄の全部)を算え、ゲンチョの約70個、アカシタビラメの70~75個より著しく多いこと。(4) 体色や斑紋はゲンチョに似るが、地色の淡紅色に富む点が異り、又アカシタビラメとは大いに異なるもので、赤味が少いことと斑あることの諸点により *Areliscus* ではない。

次に蒲原教授(1952)の土佐国高岡郡宇佐の本種の1標品の測定では頭長は眼径の7.6倍、体長は頭長の5.1倍、体長は体高の3.6倍、鱗列83個となつていて、大体によく似ている。

リュウキュウウシノシタという名は古く田中博士の命名されたもので属名を読んでトルラとした書物もある。

分布——SNYDER(1909)により沖縄から記載されたのが最初で、其他に鹿児島(JORDAN, TANA KA & SNYDER, 1913)と高知県宇佐(蒲原、高知大研、no. 3, p. 85, March 1952)とから報告され、今回駿河湾(沼津市志下)から知られ、これが最北分布地となつた。

673." スルガチゴダラ(新称) *Physiculus jordani* BÖHLKE et MEAD

上記両著者により Stanford Ichthyol. Bull., iv, p. 27 (1951) に始めて記載されたもので、其標品は Albatross 号が駿河湾沖で採集した只1点が知られるのみである。蒲原教授(1952)が御豊瀬市場で入手して記載のナガチゴダラ(*P. inbarbatum*)に非常に酷似するが、D. と A. の条数が多いこと・頭が僅に長広なこと・吻が長いこと・両眼間隔が広いこと及び P. と V. とが稍々後方に生ずること等で別種と認められる。詳細は「魚雑」iii, no. 1, pp. 36~38, figs. 1~2, 1953 参照。

目下の処駿河湾特産魚の一つと見られる。

次の種類は本目録から削除すべきことに決した。

613. シワイカナゴ *Hypoptichus dybowskii* STEINDACHNER

削除の理由——岡田・松原：日本産魚類検索(1938) p. 391 に「日本海、静浦、Bay of Strielok, ……」とあるので私は駿河湾目録に加えた。そして蒲原：土佐及び紀州の魚類(1950), p. 272 にも「垂庭湾～静岡県静浦、紀州、……」となっている。昨年高木和徳氏から駿河湾の本種の標品を送附ありたき旨の通知に接し、私は上記の文献を引用したに過ぎないとお答しておいた。其後疑が多くなったので段々調べる内に JORDAN, 田中及び SNYDER, 1913, p. 403 を見ると、シワイカナゴ(*dybowskii*)の分布の中には静浦はなく、その代りアイイカナゴ(*H. steindachneri* FRANZ, 1910)のタイプロカリティーは“Fukuura”=神奈川県(相模湾)福浦(真鶴附近)となっている。これが又岡田・松原氏著中に見当らないのは、アイイカナゴがシワイカナゴのシノニムとなつたためかと思い、そして福浦転じて静浦となつたのではないかと考え、最近松原教授にお尋ねした処、私の考え方通りであるから訂正せよとの御返事を戴いたから、茲に以上のことを書いて一先づ駿河湾魚類目録から削除する。しかし紀州でとれ、相模湾でとれているのであるから駿河湾に出現の可能性は充分に残されることを附加する。

本篇を草するに当たり田中博士・蒲原教授・松原喜代松教授及び阿部宗明博士から得た種々の御援助を記し感謝の意を表する。

Résumé

The author has enumerated four species of fishes with some notes. Among them *Ranzania makua* and *Trulla itina* are newly added to the list of the fishes of Suruga Bay, Japan. *Hypoptichus dybowskii* should be erased from this list.